



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

2月号—No.286

2019.1.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【舂花色(ますはないろ)】灰色がかった淡い青色。

2020年に市川海老蔵が江戸歌舞伎の大名跡である團十郎の十三代目を襲名すると発表したが、舂花色はその團十郎に由来する色名。五世團十郎が浅葱に洗みを加えた色を好み、市川家のシンボルカラーとして用いたことから家紋の「三舂」から舂を取り、市川家の花色(青色)という意味の舂花色が誕生した。

●目次 / contents

今月のニュース	2
平成30年度「邦楽地域活性化事業」報告	
財団からのお知らせ	4
平成30年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」鹿 児島セッションガラコンサート開催/地域創造のFacebookのご案内/ 「地域創造レター特別アンケート」への回答御礼	
今月の情報	5
地域通信	
制作基礎知識シリーズ Vol.44	10
「若年層の文化行動」② 文化好きな若者たちの姿を探る	
今月のレポート	12
北海道帯広市 第4回帯広市民バレエ『コッペリア』	

広島県下の3市で地域交流プログラムを実施

平成30年度

邦楽地域活性化
事業



邦楽地域活性化事業は、地域創造の支援により都道府県・政令指定都市(もしくは設置したホール)が主催し、市町村ホール等と連携して地域に邦楽の魅力にふれるとともに、ノウハウを学ぶ機会を提供する事業です。和楽器の体験等が義務教育化され、また2020年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムにおいて日本の伝統文化への関心が高まっていることから、公立ホールでも一層の取り組みが求められています。

今年度は、財団設立40周年を迎える公益財団法人ひろしま文化振興財団の主催により、廿日市市(廿日市市さいき文化センター)、東広島市(東広島芸術文化ホール くらら)、福山市(ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ)で実施されました。8月に関係者全員による全体研修会を実施した後、9月に若手演奏家3組(計9人)が4日間のアウトリーチ・プログラム手法開発研修会を行い、10月から3市で地域交流プログラム(小学校へのアウトリーチおよびホール公演)を実施しました。今回のライターでは、各市での取り組みの模様をご紹介します。

●思い入れのある楽曲を伝える～廿日市市

邦楽活性化事業ではコーディネーターから推薦を受けた演奏家(リーダー)が新たにアンサンブルを組んで事業に取り組みます。廿日市市を担当したのは、平成28年度邦楽活性化事業にも参加した経験をもち、日本芸能実演家団体協議会(芸団協)が実施している「キッズ伝統芸能体験」の講師も務めたことのある山田流箏曲演奏家の森田博代さんが、東京芸術大学の同窓である尺八演奏家の見澤太基さんと箏曲演奏家の山下紗綾さんと組んだチームです。

森田さんが好きだという『秋篠寺』(秋篠寺の元住職が四季を詠んだ短歌六首に中田博之が作曲したもの)をプログラムの中心にして、「自分の好きなものに出会うこと、好きなものに気づくことの素晴らしさ」を子どもたちに伝えるアウトリーチを展開しました。和楽器の紹介から始まり、わかりやすい情景描写などの説明を入れながら箏歌の魅力をアピール。

森田さんは、「地域の方々にとって新しいものを伝える体験ができたのではないかと思います。教室という小さな空間で子どもたち

写真

左上: 全体研修会(2018年8月22日/広島県民文化センター)

右上: 廿日市市チームによる邦楽アウトリーチ(2018年10月12日/廿日市市立宮園小学校)

左下: 東広島市チームによる邦楽アウトリーチ(2018年10月25日/東広島市立河内小学校)

右下: 福山市チームによる邦楽アウトリーチ(2018年12月5日/福山市立旭小学校)

●「邦楽地域活性化事業」に関する問い合わせ

芸術環境部 仕田
Tel. 03-5573-4078

と向き合い、その反応を受け取りながら行うアウトリーチは、演奏家も育ててもらえる貴重な機会だと実感しました」と振り返っていました。

●地元の作曲家に新曲を委嘱～東広島市

東広島市を担当したのは、こちらも2度目の邦楽活性化事業参加でハープやヴァイオリンなど洋楽器とのユニットでも活躍する生田流箏曲演奏家の喜羽美帆さんがリーダーとなった、篠笛の小泉なおみさんと箏曲の岡戸朋子さんとのチームです。二十五絃箏・十七絃・胡弓・篠笛という珍しい編成で、喜羽さんは「目に見えない感情的なもの、抽象的なものを子どもたちにどう伝えるか」を念頭に、「音で見る、音で感じる」をアウトリーチのテーマにしています。

その核となったのが、広島県呉市出身の作曲家ミヤケリョウさんに広島の空気感、故郷の森をイメージして委嘱した新曲『森羅の瞬き』でした。コーディネーターの谷垣内和子さんとメンバーが話し合いを重ねてつくり上げたアウトリーチプログラムは子どもたちの反応も良く、「演奏家が真剣に向き合うことで子どもたちにも伝わる」ことを実感したとか。

また、2016年に開館したばかりの東広島芸術文化ホール くららで実施したワークショップでは、会館の名前にちなんで「くららでさくら」をテーマに『さくらさくら』のメロディーと、ホール担当者が作曲した短い旋律を組み合わせた即興曲の作曲にチャレンジ。参加者全員で合奏する邦楽らしからぬ面白い試みも行われました。

●歌舞伎音楽の“いろは”を伝える～福山市

福山市を担当したチームのリーダーは、古典から現代まで新しい邦楽のあり方を求めて多彩な分野で活躍し、海外公演も多い日本音楽集団と和楽団煌に所属する三味線演奏家の箕田弘大さんです。

東京藝術大学卒業生を中心にした長唄東音会にも所属する箕田さんは、「歌舞伎音楽」の魅力を伝えたいと新保有生さん(能管/篠笛)と都築かとれさん(三味線)とチームを編

成しました。楽器の特徴を紹介するとともに、虫や動物の鳴き声、川の流れを表す情景を描写する長唄三味線の魅力をアピール。歌舞伎十八番の『勸進帳』を取り上げ、登場人物をパネルにして芝居仕立てであらすじを紹介した後、長唄の歌詞を書き出してわかりやすく解説。小学生が飽きることなく歌舞伎の世界に親しめる工夫がなされていました。3人のみでの『勸進帳』の披露でしたが、子どもたちは迫力のある演奏に魅了されていました。

アウトリーチが実施された福山市立旭小学校の和田亘校長は、「音楽のみならず、子どもたちに本物を触れさせたいと思っています。別の能楽体験事業で舞台上上がる経験をしたことのある子どもたちにとって、今回の歌舞伎を題材にしたプログラムは身近でかつ新鮮な内容だったのではないのでしょうか。伝えるために様々な趣向が凝らされており、子どもたちはもちろんのこと、教師にとっても貴重な時間になりました」と振り返っていました。



1月26日には、広島県民文化センターで財団設立40周年記念の一環として3組9名の演奏家が出演するガラコンサート「和音響演」が予定されています。各チームによる演奏に加え、今回のために広島大大学院の徳永崇准教授に編曲を委嘱した『春の海』で合同演奏を披露します。さまざまなチャレンジができる事業として邦楽活性化事業の取り組みに注目していただければと思います。

●平成30年度邦楽地域活性化事業

[主催]公益財団法人ひろしま文化振興財団
 [共催]一般財団法人地域創造
 [チーフコーディネーター兼コーディネーター]
 児玉真((一財)地域創造プロデューサー)
 [コーディネーター]谷垣内和子((公社)日本芸能実演家団体協議会実演芸術振興部企画室長)、米澤浩(邦楽演奏家、(特非)日本音楽集団副代表)
 [サブコーディネーター]多田彩子(邦楽演奏家)
 ●地域交流プログラム
 ●廿日市市
 [演奏家]森田博代(代表者:箏曲)、見澤太基(尺八)、山下紗綾(箏曲)
 [日程]2018年10月11日～13日
 [公演会場]さいぎ文化センター

●東広島市
 [演奏家]喜羽美帆(代表者:箏曲)、小泉なおみ(篠笛)、岡戸朋子(箏曲)
 [日程]2018年10月25日～27日
 [公演会場]東広島芸術文化ホール くらら
 ●福山市
 [演奏家]箕田弘大(代表者:三味線)、新保有生(能管/篠笛)、都築かとれ(三味線)
 [日程]2018年12月5日～7日
 [公演会場]ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ
 ●総括公演プログラム
 ●ガラコンサート
 [日時]1月26日 14時開演
 [会場]広島県民文化センター

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●平成30年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」鹿児島セッションガラコンサート開催

本年度、都道府県と連携してアウトリーチの手法や事業展開の普及などを旨とするアウトリーチフォーラム事業を鹿児島県で実施しています。オーディションによって選ばれた2組の若手アーティストが参加し、6月に鹿児島県に滞在して行った研修でコーディネーターとともに創り上げたプログラムを基に、9月から県内4市町(始良市、伊佐市、長島町、知名町)の小学校等で子どもたちを対象にそれぞれ計6回のアウトリーチと1回のホールコンサートを実施してきました。

そして、この事業の集大成となるガラコンサートを2月23日(土)に宝山ホール(鹿児島県文化センター)で開催します。出演は鹿児島出身のピアノトリオ「トリオ・リラ」と関西

で結成されたサクソフォンカルテット「Glück Saxophone Quartet」。鹿児島県内の小学校へのアウトリーチを通じて、地域の子どもたちとの交流を図ることにより、アーティストとしての得難い経験をした彼らの奏でる音楽をぜひお楽しみください。

[日時] 2019年2月23日(土) 14:00開演(13:30開場)

[会場] 宝山ホール(鹿児島県鹿児島市山下町5-3)

[料金] 1,000円(全席自由、当日500円増)

[出演] トリオ・リラ、Glück Saxophone Quartet(グリュックサクソフォンカルテット)

[演奏曲目] F.メンデルスゾーン作曲「ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 Op.49」、伊藤康英作曲「琉球幻想曲」ほか

[問い合わせ] 鹿児島県文化振興財団
Tel. 099-223-4221

●地域創造のFacebookのご案内

地域創造では、7月からFacebookでの広報を始めました。地域創造の動きをタイムリーに発信するほか、全国各地の公立文化施設の情報もシェアしています。公立文化施設でFacebookページをお持ちの場合には、「いいね!」をお願いします。また、地域創造の事業や助成制度を活用して公演等を実施される場合には、ぜひ自施設のFacebookへの投稿をお願いします。地域創造でも情報発信していきます。

<https://www.facebook.com/RegionalArtActivities/>



●「地域創造レター特別アンケート」への回答御礼

「特別アンケート」にご協力をいただき、ありがとうございました。285件(4.6%)のご回答をいただき、貴重なご意見を多数いただきました。結果をご報告します。今後も地域創造レターを通して情報発信に力を入れてまいりますので、よろしくをお願いします。

◎回答結果(抜粋) 単位:%

【内容満足度】*未回答は省略

●今月のニュース

満足:53.3/やや満足:42.8/やや不満:1.4

●財団からのお知らせ

満足:47.7/やや満足:47.4/やや不満:2.5

●地域通信

満足:48.8/やや満足:46.3/やや不満:2.8

●アーツセンター情報

満足:42.1/やや満足:50.2/やや不満:3.2

●制作基礎知識

満足:40.0/やや満足:49.5/やや不満:2.8

●今月のレポート

満足:52.6/やや満足:42.8/やや不満:1.8

【今後のレターの配布媒体】

PDF・紙媒体の両方あるとよい:67.0/PDFのみ

でよい:17.9/紙媒体のみでよい:12.9/その他:

1.8

●「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 山居
Tel. 03-5573-4069

●地域創造レターに関する問い合わせ
芸術環境部 三田・高澤
Tel. 03-5573-4066

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 三田・高澤

●2019年4月号情報締切

3月1日(金)

●2019年4月号掲載対象情報

2019年4月～6月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」

掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

◎公共ホール等の求人情報

◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

●札幌市

札幌市芸術文化財団
〒005-0864 札幌市南区芸術の森2-75
Tel. 011-592-4125 小野塚明子
<http://geimoriballet.jp/>

札幌芸術の森バレエセミナー 30周年記念公演

1988年に開講したバレエセミナーの30周年を記念したスペシャル・ガラ公演。セミナー主任講師を務め、スペイン国立ダンスカンパニー芸術監督のジョゼ・マルティネズが公演を監修。スペイン国立ダンスカンパニーのダンサーや東京バレエ団上野水香・柄本弾をはじめ、同セミナー出身で日本人として初めてプロワ賞を受賞した木田真理子、北海道出身の西野隼人、小倉友梨香らが出演。

[日程]2月2日

[会場]札幌文化芸術劇場 hitaru

●岩手県宮古市、大船渡市、青森県八戸市ほか

三陸国際芸術推進委員会
〒022-0002 大船渡市大船渡町字台16-1(三陸国際芸術祭事務局)

Tel. 0192-22-9830 坪井奈穂美
<https://sanfes.com/>

三陸国際芸術祭

「郷土芸能の魅力の発信」と「国内外との芸能を通じた交流」を目的に、三陸沿岸地域で2014年から実施。今年度は青森県・岩手県・宮城県の13自治体と8民間団体から成る推進委員会を発足し、宮古・八戸・大船渡の主催のほか、より広い地域で展開する。三陸東北の郷土芸能22団体が参加し、神楽を習うプログラムや、インドネシアの芸能団体との交流など多数のプログラムが行われる。

[日程]2月9日～3月24日

[会場]イーストピアみやこ、八戸

まちなか広場「マチニワ」、キャッセン大船渡ほか

●岩手県遠野市

遠野物語ファンタジー制作委員会
〒028-0524 遠野市新町1-10
Tel. 0198-62-6191 奥寺悠子
<http://www.tono-ecf.or.jp/>

第44回遠野物語ファンタジー

『天人子～まごころの贈り物～』
地元で伝わる民話や歴史を題材として毎年開催している市民演劇。出演者も経験者や初参加などさまざまで、脚本は公募により決定し、演出・舞台制作・演奏もすべて市民でつくり上げる。演劇に加え、自作のオリジナル音楽の生演奏、バレエ、民俗芸能を盛り込んだ総合創作舞台で、今回は第9回公演『羽衣の詩～天人児より～』をモチーフにした内容となっている。

[日程]2月23日、24日

[会場]遠野市民センター

●岩手県奥州市

奥州前沢劇場実行委員会
〒029-4208 奥州市前沢字七日町裏104
Tel. 0197-56-7100 及川宜子
<http://www.furesen.com/>

第19回奥州前沢劇場

『どこまでも続く空』

毎年、地元奥州市前沢の歴史や地域に伝わる昔話などを基に創作する市民劇。脚本、キャスト、スタッフすべてを毎年公募し、演出も市民が担うなどオール市民での舞台が特徴。小学1年生から70歳代までのキャスト28人が週3回の稽古に励み本



2018年度公演『むつざくら～前沢地ビール物語～』(2018年2月)

番を迎える。1幕90分の舞台は第2次世界大戦後の前沢を舞台に、家族の温かさや平和への願いをテーマに展開する。

[日程]2月17日

[会場]前沢ふれあいセンター

●秋田県横手市

秋田県立近代美術館
〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46(秋田ふるさと村内)
Tel. 0182-33-8855 藤井正輝
http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public_html/

横山津恵展

長年にわたって秋田大学で教鞭を執りながら日本美術院展覧会(院展)に出品を続けるなど、秋田県の日本画壇を牽引してきた秋田市出身の日本画家・横山津恵が、2017年に没後10年を迎えたことから企画された回顧展。初期から晩年にかけての作品64点と資料を展示し、横山が生涯にわたり追及し続けた女性美の数々を紹介する。

[日程]12月1日～2月11日

[会場]秋田県立近代美術館

●山形県鶴岡市

鶴岡アートフォーラム
〒997-0035 鶴岡市馬場町13-3
Tel. 0235-29-0260 平井鉄寛
<http://www.t-artforum.net/>

庄内の美術家たち14

「書画の嗜み」

郷土の芸術文化史を見直し、庄内ゆかりの作家を紹介する展覧会シリーズ。過去取り上げてきた作家や展覧会はウェブサイト上にアーカイブもしている。14回目の今回は、明治に生まれ第2次世界大戦に至る時代に伝統的な書画を心得とした松平穆堂と土屋竹雨、明治以降の庄内における書道の礎を築いた黒崎研堂の詩書画約60点を展覧する。

[日程]2月2日～3月3日

[会場]鶴岡アートフォーラム

●福島県猪苗代町

福島県障がい福祉課

〒969-3122 耶麻郡猪苗代町

新町4873 (はじまりの美術館)

Tel. 024-262-3454 小林竜也

<http://www.kininaru-hyogen.info/>

第2回福島県障がい者芸術作品 展「きになる⇔ひょうげん2018」

“きになる”という言葉に基づいた障がい者による作品の公募展。作者や作品の生まれた経緯を想像することで“障がい”について考え、理解を深めることを目的としている。審査員を美術家・日比野克彦らが務め、来館者の投票によるオーディエンス賞も設ける。また障がい者芸術活動推進に向けて連携している新潟県、山形県の関係者を招いたトークイベントも実施。

[日程] 2月2日～3月10日

[会場] はじまりの美術館

関東

●栃木県宇都宮市

栃木県立美術館

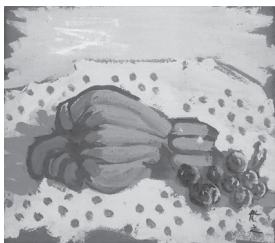
〒320-0043 宇都宮市桜4-2-7

Tel. 028-621-3566 木村理恵子

<http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>

水彩画の魅力

明治時代に西洋画技法のひとつとして紹介され、学校教育にも取り入れられて大衆に普及した水彩画の魅力伝える企画展。館蔵のコレクションの中から、J・M・Wターナーやデイヴィッド・コックス、明治時代の教育者だった河野次郎のほか、五百城文哉、清水登之、小山田二郎、草間彌生などの多様な水



清水登之《静物》(1930年代/栃木県立美術館蔵)

彩による表現を、約150点で紹介する。

[日程] 1月12日～3月24日

[会場] 栃木県立美術館

●さいたま市

埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1

Tel. 048-824-0111 谷田昇平

<http://www.pref.spec.ed.jp/momas/>

インポッシブル・アーキテクチャー

突出したアイデアや夢想、過激な芸術性ゆえに不可能であった建築を、海外、国内の建築構想でたどる。展覧会名の「インポッシブル」という言葉は、単なる不可能を伝えるものではなく、不可能性に目を向けることで、建築の可能性を問いかけるもの。会期中は本展監修者の五十嵐太郎(建築史家)と建畠哲館長によるクロストークや、今村創平(建築家)によるレクチャーを開催。

[日程] 2月2日～3月24日

[会場] 埼玉県立近代美術館

●埼玉県富士見市

キラリ財団

〒354-0021 富士見市大字鶴馬1803-1

Tel. 049-268-7788 中出千尋

<http://www.kirari-fujimi.com/>

キラリふじみ・レパトリー

『Mother-river Homing』 『Mother-river Welcome— 華麗なる結婚—』

5名のアソシエイトアーティストと共にレパトリー作品の創作に取り組んでいるキラリふじみ。そのアーティストのひとりで、来年度よりキラリふじみ芸術監督に就任することが決まった田上豊の代表作のひとつ『Mother-river Homing』(2012年初演)と、その続編(2016年初演)を、多くの市民からの要望に応じて2作品同時上演する。

[日程] 2月23日～3月3日

[会場] 富士見市民文化会館 キ

ラリ☆ふじみ



『Mother-river Welcome』(2016年6月)

●千葉県市川市

市川市文化振興財団

〒272-0025 市川市大和田1-

1-5

Tel. 047-379-5111 篠原隆司

<https://www.tekona.net/bunkakaikan/>

ママも楽しい0歳からコンサート

ベビーカー置場、おむつ換え・授乳スペースを用意し、0歳から入場できるコンサートを開催。プログラムも幼児と母親が楽しめる楽曲をセレクト。演奏は、毎年市川市が開催している新人演奏家コンクールの受賞者。コンクール応募者は大学生演奏家を中心に、受賞者には市川市内で行われる音楽事業等での演奏など活躍の場を提供している。

[日程] 3月4日

[会場] 市川市文化会館

●東京都町田市

町田市文化・国際交流財団

〒194-0022 町田市森野2-2-

36 (町田市民ホール内)

Tel. 042-728-4300 河野竜也

<https://www.m-shimin-hall.jp>

ふれあいコンサート

音楽や落語の公演を年間6回程度、町田市内の市民センターやコミュニティセンターとの協働で開催しているふれあい公演。地域住民に気軽にお越しいただける催しをコンセプトに、近年は音楽分野では町田市ゆかりのアーティストを中心に、クラシックやジャズなどのジャンルを取り

上げている。今回は、市内在住の鳥尾匠海(テノール)が名曲をお届けする。

[日程] 2月10日

[会場] 町田市南市民センター

●東京都調布市

調布市せんがわ劇場

〒182-0002 調布市仙川町1-

21-5

Tel. 03-3300-0611 安延洋美

<http://www.sengawa-gekijo.jp/>

せんがわ演劇祭～リーディング・ フェスティバル～

俳優が語る言葉を聴くことを楽しむ“リーディング”をテーマに、気軽に演劇を楽しむことができるフェスティバル。上演時間やチケット料金もコンパクトに設定する工夫をし、気軽に演劇を楽しんでもらう。日本の童話1作品、海外の戯曲3作品を使ったリーディングのほか、調布市内で活動する5団体の公演も行い、地域で舞台芸術を楽しむ2週間とする。

[日程] 2月8日～17日

[会場] せんがわ劇場

●東京都多摩市

多摩市文化振興財団

〒206-0033 多摩市落合2-35

Tel. 042-375-1414 白川早良

<http://pocofes.com/>

Poco Poco Festa 2019～ス テージアートのおもちゃ箱～

子どもたちがさまざまな舞台芸術を体験することで、自分の世界を広げたり、自分の可能性を発見したりする機会を提供することを目指す。パルテノン多摩の全館を使い、子どもはもちろんのこと大人も会場内で演劇やパントマイム、ダンス、ミュージカル、ブラスバンド、影絵、マジックなどの舞台芸術のワークショップを体験し、楽しむことができる。

[日程] 2月3日

[会場] パルテノン多摩

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●横浜市

横浜市泉区民文化センター テアトルフォンテ

〒245-0023 横浜市泉区和泉中央南5-4-13

Tel. 045-805-4000 佐藤貴博
<http://www.theatre-fonte.com/>

ウィズ・ミュージック シリーズ「アルゼンチン タンゴ コンサート」

気軽に楽しめるコンサートをコンセプトとして3年前から開催している「ウィズ・ミュージック シリーズ」。2018年4月からは1日2公演とし、午前中に乳幼児と家族のための「親子で楽しめるベビーコンサート」も企画している。取り上げる音楽のジャンルはさまざまだが、シリーズ30回目を迎える今回は初めてアルゼンチンタンゴを取り上げ、特にバンドネオンの音色を楽しんでもらう。

[日程] 2月23日

[会場] 横浜市泉区民文化センター テアトルフォンテ

●神奈川県茅ヶ崎市

茅ヶ崎市美術館

〒253-0053 茅ヶ崎市東海岸北1-4-45

Tel. 0467-88-1177 藤川・月本
<http://www.chigasaki-museum.jp/>

開館20周年記念「版の美Ⅰ—創作版画の系譜」

開館20周年を記念し、「版の美—板にのせられたメッセージ」をテーマに浮世絵・新版画から現代の版画まで木版画の魅力をシリーズで紹介。その掉尾を



山本鼎《ブルトヌ》(1920(大正9)年/木版/上田市立美術館所蔵)

飾る第4弾は「創作版画」に焦点を当てる。1904年、雑誌『明星』に掲載された山本鼎の記念碑的作品《漁夫》に始まる創作版画の物語を、明治末期から大正期、昭和前期に制作された20名の作家による約180点の作品によりひも解く。

[日程] 2月10日～3月24日

[会場] 茅ヶ崎市美術館

●神奈川県藤沢市

藤沢市アートスペース

〒251-0041 藤沢市辻堂神台2-2-2 ココテラス湘南6F

Tel. 0466-30-1816 喜田早菜江
<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/bunka/FAS/>

企画展Ⅳ「点と線の宇宙」

湘南ゆかりの作家である石川美奈子、今村洋平、渡辺望の若手作家3名による展覧会。小さな“点”や“線”によって、光、山、星などの自然や宇宙を表現した作品を紹介する。当施設は若手アーティスト等の支援やさまざまなジャンルの企画展に力を入れており、138m²のレジデンスルームを有する。本展でも滞在制作による新作を併せて展示する。

[日程] 2月9日～3月21日

[会場] 藤沢市アートスペース

北陸・中部

●石川県金沢市

オーケストラ・アンサンブル金沢
〒920-0856 金沢市昭和町20-1

Tel. 076-232-0171 大海文

<https://ongakudo.jp/>

OEKファンタスティック・オーケストラコンサートVol.2 OEK The 殺陣!

オーケストラに親しみやすい内容で構成するオーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)のコンサートシリーズ。今回は殺陣(たて)とコラボレーションして、美しく

迫力ある舞台に。大河ドラマのテーマ音楽とスペシャルゲスト村田雄浩らの立ち回りが披露されるほか、映画音楽にまつわる安田顕のゲストトークも。

[日程] 2月3日

[会場] 石川県立音楽堂

●岐阜県美濃加茂市

美濃加茂市民ミュージアム

〒505-0004 美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1

Tel. 0574-28-1110 和歌由花

<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

版画史と「私」

美濃加茂市にゆかりの深い3名の版画家(船坂芳助、堀江良一、安藤真司)の展覧会。3作家の作品は、それぞれに寄贈を受けてコレクションとなったもので、その経緯も併せて紹介する。特に安藤の作品は新潟県在住の収集家から寄贈されたもので、コレクター自身によって施された独自の額装もそのまま展示する。市内の収集家が集めた他の版画家の作品も展示し、コレクションすることの面白さも伝える。

[日程] 12月15日～3月3日

[会場] 美濃加茂市民ミュージアム

●静岡市

静岡市観光交流文化局 まちは劇場推進課

〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1

Tel. 054-221-1229 萩原智美

http://www.city.shizuoka.jp/143_00068.html

「まちは劇場」プロジェクト推進事業 0歳から入れる!親子クラシックコンサート

静岡市内で活動しているオーケストラを含む地元のアーティスト等と連携し、オープンスペースでの「まちかどコンサート」や「学校訪問コンサート」を実施することで、音楽文化を通じてまちの活

性化を目指すプロジェクト。今年で3年目を迎え、親子コンサートも年4回実施。未就学児を含む親子が気軽に音楽を楽しむ機会を提供する。

[日程] 2月23日

[会場] 静岡音楽館AOI



今年の公演の様子

●名古屋市

愛知県芸術劇場

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

Tel. 052-971-5609 藤井明子

<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>

愛知県芸術劇場ミニセラウンドパフォーマンス・プラットフォーム2019

小ホールを活用し、音と身体を核とした舞台芸術の新たな表現にチャレンジするライブパフォーマンス公演。前身の「AACサウンドパフォーマンス道場」は2006年から開始、これまでに11回開催している。今回のテーマは「音響(PA)⇔公衆伝達(パブリック・アドレス)」。藤田陽介、中原昌也らゲストアーティスト4組と公募アーティスト6組がオムニバス形式で登場する。

[日程] 2月9日、11日

[会場] 愛知県芸術劇場

●愛知県豊田市

豊田市文化振興財団

〒471-0035 豊田市小坂町12-100

Tel. 0565-31-8804 原田秀樹

<http://www.cul-toyota.com/>

とよた演劇ファクトリー 修了公演「可愛い女」

10年間継続してきた「とよた演

劇アカデミー」をリニューアルし、「役者コース」に加え新たに「演出コース」を創設。5月から鹿目由紀(劇団あおきりみかん)の指導で演劇を学んできた24人が修了公演に臨む。チェーホフの小説を鹿目が脚色し、演出コース4人が4つの舞台につくり上げる。幕間では鹿目による解説もあり、演出の違いを楽しめる。
[日程] 2月3日
[会場] 豊田産業文化センター

●愛知県知多半島5市5町
知多半島春の国際音楽祭運営委員会
〒470-2555 知多郡武豊町字大門田11
Tel. 0569-74-1211 千田裕美子
<http://chita-haruon.com/>

●知多半島春の国際音楽祭2019
武豊町で開催していた「武豊春の音楽祭」を2013年から知多半島全域に拡大し、4回目の開催。各市町で民間を主体とした実行委員会を組織し、2カ月にわたり、飲食店や福祉施設、寺院などあらゆる会場でコンサートが行われる。プロはもちろん、地域の演奏家やアマチュア音楽家による市民企画コンサートや、親子で楽しめるキッズプログラム等の催しが多数開催される。
[日程] 1月26日～3月10日
[会場] 知多半島全域

近畿

●三重県津市
三重県立美術館
〒514-0007 津市大谷町11
Tel. 059-227-2100 貴家映子
<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/index.shtm>

●Para-Landscape(パラ ランドスケープ)“風景”をめぐる想像力の現在
東海圏あるいは三重県にゆかりのある5名の出品アーティストの、大規模なインスタレーション

作品も含む、風景を題材とした作品を紹介。稲垣美侑は鳥羽市の離島をめぐった経験を絵画化し、徳重道朗は伊勢と熊野の間の海岸線にある集落に着目し、独自の文化や歴史、風景の変遷を基に新作を制作する。三重県内の風景を見直す関連イベントも開催される。
[日程] 1月4日～3月24日
[会場] 三重県立美術館



徳重道朗《スナップ写真》(2018年/作家蔵)
※インスタレーション「対岸の風景」に展示

●滋賀県近江八幡市
安土町文芸の郷振興事業団
〒521-1321 近江八幡市安土町桑実寺777
Tel. 0748-46-6507 植西克也
<http://www.bungei.or.jp/>

●第23回ミュージックフェスティバル
地域を問わず一般公募により出演者を選定して毎年開催しているコンサート。今年は“未来”をテーマに10～12分のプログラムを用意した10組の音楽家が集い、声楽をはじめピアノやフルート、パイプオルガン、ハンドチャイムなどさまざまな楽器や、合唱、アンサンブルでテーマを表現する。
[日程] 2月17日
[会場] 安土文芸セミナリヨ

●京都市
Kyoto演劇フェスティバル実行委員会
〒602-0858 京都市上京区寺町通広小路下ル東桜町1
Tel. 075-222-1046 上田晶人
<http://www.bungei.jp/enfes/index.html>

第40回記念Kyoto演劇フェスティバル

京都府内の劇団・人形劇団を対象に、地域密着型の演劇祭として昭和54(1979)年より開催。「子どもから大人まで楽しめるフェスティバル」として地域に定着し、全国有数の開催回数を誇っている。今回は40回記念として、従来の公募公演に加え、13年ぶりの市民参加による合同創作劇を実施。作・演出にごまのはえ(ニットキャップシアター)を迎え、ワークショップを経て舞台上演を行う。
[日程] 2月3日～24日
[会場] 京都府立文化芸術会館

●兵庫県西宮市
兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター
〒661-0012 尼崎市南塚口町3-17-8
Tel. 06-6426-1940 山本由利子
<http://hyogo-arts.or.jp/piccolo/>

兵庫県立ピッコロ劇団第63回公演/ピッコロシアタープロデュース『マンガの虫は空こえて』

手塚治虫生誕90周年記念企画として創作する新作舞台。演出は、ピッコロ劇団と初顔合わせとなる岩崎正裕(劇団太陽族)が手がける。手塚の3つの自伝的作品(『紙の砦』『ゼフィルス』『ゴッドファーザーの息子』)を原作に、少年・大寒鉄郎の物語を通して、戦争の残酷さや悲惨さ、生命の不思議、いかなる状況も想像力で乗り越えて力強く生き抜いた人間を描く。
[日程] 2月15日～17日
[会場] 兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール

●兵庫県伊丹市
いたみ文化・スポーツ財団
〒664-0846 伊丹市伊丹2-4-1
Tel. 072-782-2000 木原里佳
<http://www.aihall.com>

アイホール 演劇ラボラトリー 空晴プロジェクト公演 『君をおくる君におくる』

関西で活躍する劇作・演出家の指導の下、全40回のワークショップを経て公演を行う演劇実践講座の修了公演。受講生は演技ワークショップのほか、小道具や衣裳製作、券売や仕込み・パラスなど実地作業にも取り組み、劇団活動を疑似体験しながら、本格的な演劇公演を目指してきた。今回は岡部尚子(空晴)が講師を務め、公演に向けて自身の作品を大改訂。受講生に当て書きすることで、新たな作品として蘇らせる。

[日程] 2月23日、24日
[会場] 伊丹市立演劇ホール(アイホール)



講座の様子(左が岡部尚子)

●兵庫県豊岡市
NPO法人コミュニティーアートセンタープラッツ
〒668-0031 豊岡市大手町4-5
Tel. 0796-24-3000 居相歩美
<http://platz-npo.com/>

大駱駝艦・田村一行舞台公演 『叫び突きて香を唄ふ』

大駱駝艦・田村一行による豊岡発オリジナル舞踏作品。常世の国から不老不死の果実「非時香菓(ときじくのかぐのこのみ)」を持ち帰ったという田道間守(たじまのもり)の伝説と、気候・風土やこの地に暮らす人々にインスピレーションを受け創作された。大駱駝艦メンバーと公募によって選ばれた市民10人が共演する。
[日程] 2月3日
[会場] 豊岡市民プラザ

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●奈良県奈良市

奈良市総合財団(なら100年会館)

〒630-8121 奈良市三条宮前町7-1

Tel. 0742-34-0100 長田衣代

<http://www.nara100.com/>

**開館20周年記念事業 第8回
万葉オペラ・ラボ公演 万葉オペラ『遣唐使 阿部仲麻呂の夢—東アジアを駆け抜けた風の男—』**

オペラを通じて奈良の芸術・文化・歴史の魅力を探求・発信することを目的として2011年から実施。今回は開館20周年記念事業として、万葉学者・上野誠の脚本によるオリジナルオペラを上演。ソリストを目指す学生や若手演奏家らで構成される「万葉オペラ・ラボスタジオ」や子どもの合唱団「万葉オペラ・ラボキッズ」、公募市民による合唱団「万葉オペラ・ラボフレンズ」も出演する。

[日程] 2月11日

[会場] なら100年会館

中国・四国

●鳥取県鳥取市

鳥取県立博物館

〒680-0011 鳥取市東町2-124

Tel. 0857-26-8042 三浦努

<https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>

Our collections!—鳥取県のアート・コレクションの、これまでとこれから—

新しい県立美術館の整備に向けて、鳥取県の美術コレクションのこれまでとこれからを考える展覧会。4章構成となっており、1・2章では、どんな成り立ちでコレクションが形成されてきたのかをテーマを設けるなどして紹介。3章は県民による人気投票上位の作品を展示し、4章では、他館や画廊などからも作品を借用し、今後のコレクションの方向性を提示する。

[日程] 2月16日～3月10日

[会場] 鳥取県立博物館

●広島県呉市

呉市立美術館

〒737-0028 呉市幸町入船山公園内

Tel. 0823-25-2007 宮本真希子

<http://www.kure-bi.jp/>

郷土の作家たち—呉美術の宝物に出会える展覧会—

「呉に生まれる」「呉で活動」「呉を描く」など、呉ゆかりの43作家の作品により、戦前戦後から現代にかけての呉美術の諸相を紹介するコレクション展。日本近代美術史の縮図のようなバラエティに富んだ技法・素材・表現法による作品群と呉ならではのテーマを楽しむ。また、今年度美術館で高校生キュレーターとして活動した高校生たちが推奨する作品も展示される。

[日程] 1月6日～3月24日

[会場] 呉市立美術館

●徳島県徳島市



あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

〒770-0835 徳島市藍場町2-14

Tel. 088-622-8121 川口剛

<http://www.kyoubun.or.jp/>

AWA伝統芸能創造発信プロジェクト2019

3カ年かけて地域文化資源を活用した「徳島ならではの文化」を発信するプロジェクト。2年目を迎える今年は、3日間にわたり特色ある公演を実施。初日は、徳島特産の藍にちなんだ物語で、新演出の演目を含む浄瑠璃



昨年の公演の様子

公演を、中日は徳島出身の作曲家・三木稔にフォーカスした邦楽公演を行う。最終日には、阿波踊りを舞台芸術として披露して締めくくる。

[日程] 2月1日～3日

[会場] あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

九州・沖縄

●北九州市

北九州市芸術文化振興財団

〒805-0062 北九州市八幡東区平野1-1-1

Tel. 093-663-6661 福原理子

<http://www.kicpac-music.jp/>

実験的音楽空間「REFINE～音も身体も～」

開館25周年を迎える響ホールが「実験的音楽空間」と題し、地域との協働で新たな舞台作品づくりに取り組む。ダンスの振付や演出をセレノグラフィカが、音楽構成をアンサンブル・ノマドがそれぞれ手がけ、八幡地域に滞在して「ダンス×音楽」のコラボレーション作品を創作・上演。全6回のワークショップに参加した市民11人も出演し、作品を盛り上げる。

[日程] 2月8日

[会場] 北九州市立響ホール



ワークショップの様子

●福岡県直方市

直方谷尾美術館

〒822-0017 直方市殿町10-35

Tel. 0949-22-0038 市川靖子

<http://yumenity.jp/tanio/>

子どものための美術館×植木好正ファミリー

小学3年生から中学2年生の美

術館で活動する子どもスタッフ9名が、画家の植木好正と一緒に企画する展覧会。植木好正の家族をテーマに選定された絵画作品32点と「子どもスタッフかるた」を展示。かるたの制作には植木も加わり、子どもたちの日常から感じたことが表されている。会期中には、子どもスタッフによる解説や工作教室も多数開催される。

[日程] 1月4日～3月17日

[会場] 直方谷尾美術館

●福岡県太宰府市

太宰府市文化スポーツ振興財団

〒818-0125 太宰府市五条

3-1-1

Tel. 092-920-7070 小柳垂希

<http://www.dazaifu-z.jp/>

史跡のまちの“生”歴史ドラマ『新・岩屋城の戦い』

太宰府において実際に起きた史実の中に題材を求め発掘しながら、具体的な演劇公演にすることで、市民と共に郷土愛を育んでいく事業。今回は2年前に公演された『岩屋城の戦い』をリニューアルする。また、公演直前特別企画として「高橋紹運ミニ講座」(講師:重松敏彦)と筑前琵琶奏者の寺田蝶美による『嗚呼壮烈岩屋城』の演奏が行われる。

[日程] 2月17日

[会場] プラム・カルコア太宰府



史跡のまちの“生”歴史ドラマvol.1(2017)より

まずはオールジャンルに興味のある高感心層からアプローチする

制作基礎知識シリーズVol.44

若年層の文化行動② 文化好きな若者た ちの姿を探る

(公財)東京都歴史文化財団調査
結果より

講師 山名尚志
(株式会社文化科学研究所代表)

●公益財団法人東京都歴史文化財団「首都圏若年層の文化行動・文化意識」
【調査方法】ウェブ調査パネルを用いたインターネット調査
【調査対象】1都3県居住者の18～39歳の男女

●プレ調査(本調査の条件に則った条件のサンプルを抜き出す調査)10,000サンプル
●本調査(下記①～③の3つの条件に則ったサンプルに対する調査)3,000サンプル

①過去1年間に文化関係の何らかのイベントに参加、②都立文化施設平均に合わせてサンプル数の都内・都外比率を設定(神奈川・千葉・埼玉の比率については人口比例)、③男女年齢比率については、各都県における比率を設定

【調査日程】2017年10月10日～19日

【調査項目】

●プレ調査＝性別/年齢/居住地域/過去1年間に行った文化芸術イベント

●本調査＝《属性》同居家族/職業/普段利用している街、《生活行動》趣味/関心分野/写真撮影の状況、主な目的、《文化施設》行ったことのある施設/施設利用頻度/行かない理由/文化施設に欲しい設備やサービス/欲しい付帯施設やイベント、《文化への興味》各ジャンルへの興味度合い/先端カルチャーの内容/会場のイメージ/クラシックコンサートに行く回数/行かない理由/クラシックが好きになった理由/クラシック関連イベントへの興味/好きな時代/好きな歴史文化の楽しみ方、《情報源》文化イベントの情報源/SNSの利用状況と利用しているSNS名/閲覧している新聞・雑誌/閲覧しているウェブサイト
【分析手法】通常の単純集計、クロス集計に加え、多様な文化・趣味・消費行動から若年層の行動特性を抽出していくため、多変量解析を実施

2017年に行われた(公財)東京都歴史文化財団による首都圏の若年層(18～39歳)調査の結果を紹介する第2弾として、今回は、第2段階の3,000人対象(過去1年間に何かしら文化イベントに行ったことがある層)の調査から、文化イベントに行っている若年層の行動特性に係わるデータ部分をより詳細に紹介するとともに、筆者の発見をお伝えしていくこととしたい。

●結果データの紹介～9つのクラスター

今回の調査では、第2段階で得られた3,000人分の詳細なデータを元に、文化イベントに行っている若者層を9つに分類している。この9つのクラスターは、文化行動の量から、大きく3つに分けられる。まず、年間に文化施設に行っている回数が平均(年間5.9回)より高く、また、35の文化イベントのジャンルのほぼすべてで平均よりも参加率が高い高関心層(全体の17.9%)。ここには、文化イベント自体が趣味となっている「文化芸術派」(男女ほぼ同率)と、街遊びの延長線で文化イベントを楽しんでいる「アミューズメント派」(やや男性寄り)、知識・教養好きなので文化イベントも好きな「新聞・雑誌派」(やや女性寄り)の3つのクラスターが所属する。

次に、年間に文化施設に行っている回数が平均並以下で、ただし幾つかのジャンルでは文化イベントの参加率が並以上となっている中関心層(40.9%)が続く。この層の特徴は男女の差が明確なことにあり、若年女性中心でSNSが大好きな「SNS派」、やや年齢が上の女性中心でアパレルやアクセサリが興味の中の「ファッション派」、男性でSNSよりウェブサイトが好きな「ウェブサーフィン派」、PC好き・技術系中心・男性ばかりの「情報機器派」の4つが並ぶ。

最後が、文化施設に行っている回数が平均未満、平均より参加率が高い文化イベントのジャンルもあまりない低関心層(41.2%)である。ここには、国内観光旅行だけは好きな「旅好き派」(やや女性が多い)と、文化イベントだけでなく、趣味も、街遊びも含めて全体的に無関心な「無関心派」(男女半々)が入ってくる。

●結果データからの知見1

～文化マーケットの中心を取る

上記の東京都歴史文化財団調査の結果データから文化施設の集客を考えるなら、まず攻めるべきは高関心層である。この層は、人数的には17.9%と2割を切るが、文化施設に行く頻度は高いため、施設市場としては全体の31.3%を占める。特に「文化芸術派」は年間20.5回も劇場や美術館に来訪しており、完全に文化の市場リーダーとなっている。

高関心層の第一の特徴は、ジャンルに好き嫌いがなく、という若年層の特徴が最も強く出ていることだ。もう一つの特徴として、先端のアートやカルチャーへの興味が非常に高い、ということも指摘される。結果データを見ると、「文化芸術派」の89.4%を筆頭に、他のクラスターも7割内外の人が高い関心を持っている。この傾向は、中関心層で先端的なアートやカルチャーに関心をもつ比率が6割を切り、低関心層では3～4割しかないことと比較すると、非常に特徴的である。ここから判断するなら、特定のジャンルに突っ込むのではなく、クロスオーバー的な仕掛けでエッジの立った企画を打ち出す方向性が有望だ。これが彼ら、彼女たちを惹きつける大きな武器になる。

幸いなことに、この層では、どのクラスターでも、SNS等のデジタルなメディアだけでなく、新聞や雑誌への接触が多く、音楽専門誌や美術誌、カルチャー系の雑誌もよく読んでいる。活字好きな層なのである。これは、大きな広告・宣伝に頼ることなく、ポイントを突いた広報を行い、面白い記事を、ウェブ・新聞・雑誌に出してもらうことで、集客が可能だということの意味している。

筆者の見限り、高関心層の集客は、企画と広報の工夫次第。多額の費用を掛けずとも、文化マーケットの中心にいる高関心の若年層の集客は、十分に可能と考えられる。

●結果データからの知見2

～中・低関心層へのアプローチ

では、中関心層以下へのアプローチはどう

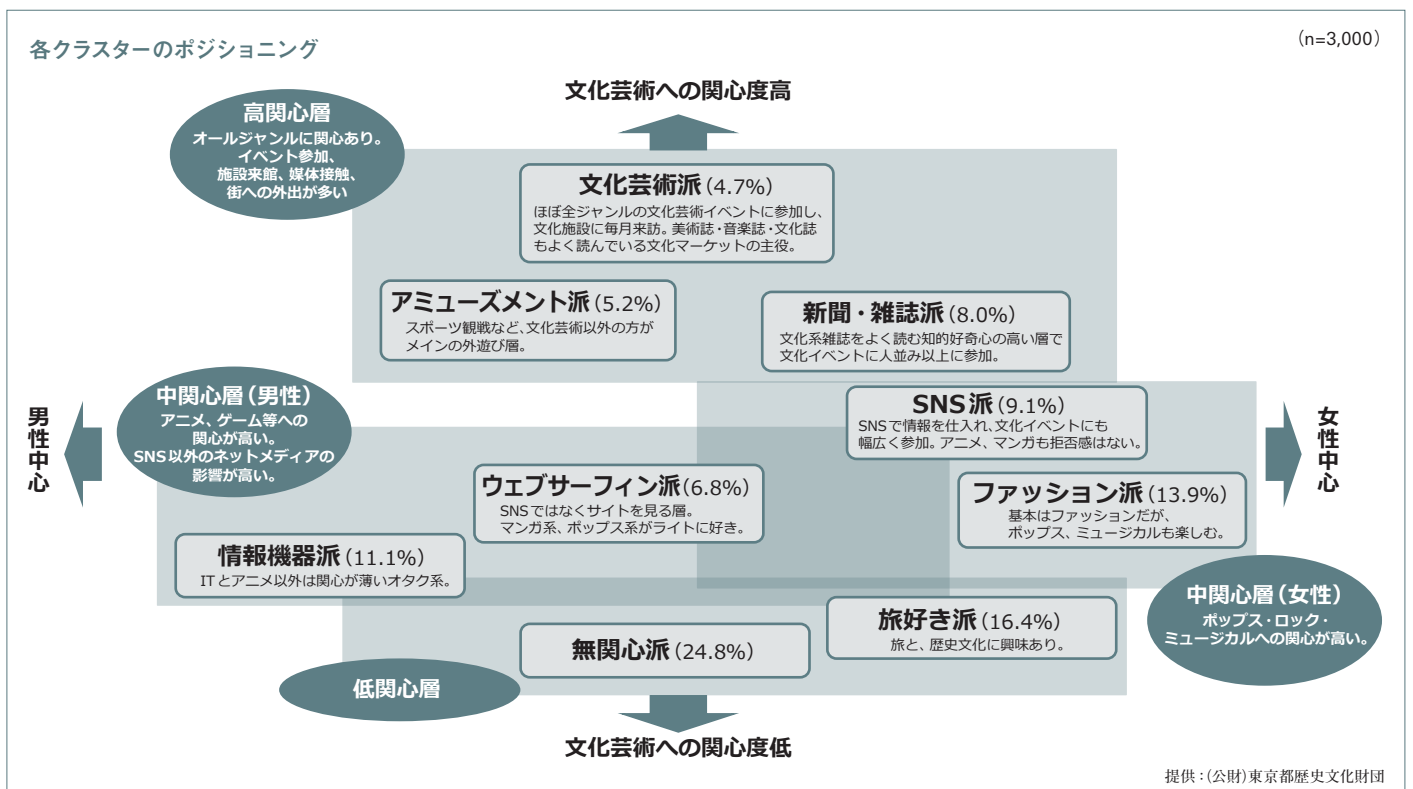
だろうか。中関心層の特徴は、先に述べたように、男女の差が大きいことに加え、ジャンルへの興味が、ポップス・ロックのコンサート、ミュージカル、アニメ・声優系イベント、マンガ系イベントなど、いわゆる商業的な分野に偏りがちなことにある。しかも、女性中心のファッション派はアニメ系・マンガ系に興味がない、男性中心の情報機器派は演劇にもミュージカルにも興味がなく、アニメ・ゲーム系に関心が集中している等々、嗜好としてもかなり男女差が出ている(ただし、20歳代までの女性が主体のSNS派では、アニメやマンガへの興味・関心も高い。同じ女性でも、年齢により、いわゆるオタク系の文化への態度について、大きな差が出ていることも面白い)。また、SNSやウェブサイトの閲覧は多いものの、新聞や雑誌の閲読はかなり下がってくる。

ここで出てきている中関心層の結果データ、メジャーで商業的な文化イベントが好きなこと、男女で嗜好の差があること、SNSやウェブ媒体はよく利用しているが、新聞・雑誌はあ

まり読まないことは、筆者の見るところでは、いずれも一般的な若者のイメージに近い。だとすると、こういった層を文化施設に連れてくるためには、企画自体そのものにメジャーな演者・奏者を組み込むなど、かなり大がかりな、つまりはコストがかかる準備が必要となってくる可能性がある。公立文化施設が取り組むべき自主事業というより、民間の文化市場による企画として、むしろ貸館事業のターゲットとみなしたほうが妥当ではないか。

さらに低関心層となると、文化に限らず趣味や余暇活動全体に消極的であり、施設に来てもらうにはかなりのハードルが存在する。また、ウェブ・SNS・新聞・雑誌等すべてのメディアに対して接触が少なく、相当大きな告知を打たなければ、情報もなかなか届けられない。

効率を考えるのであれば、若年層へは、まずは高関心層からアプローチし、低関心層には全く異なる場を中心に考えるということなのかもしれない。



▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

北海道帯広市 第4回帯広市民バレエ 『コッペリア』



1,400枚のチケットが早々に完売した『コッペリア』。帯広市の人口は約17万人(十勝管内約35万人)。大規模農業化の成功により、「十勝地域は日本一の外車保有率」と言われる豊かな地域に。「十勝モンロー主義」という言葉があるほど自立意識が高く、帯広市民劇場運営委員会もそうした土地柄から生まれたのではないかと金澤理事長 ©フォトワークス 西岡克浩

● 第4回帯広市民バレエ『コッペリア』
【会期】2018年12月16日
【主催】帯広市民バレエ公演実行委員会(市民バレエ『ティアラの会』、帯広交響楽団、帯広市民オペラの会、帯広市民劇場運営委員会、帯広市教育委員会、一般財団法人帯広市文化スポーツ振興財団)
【会場】帯広市民文化ホール大ホール
【共催】公益財団法人北海道文化財団
【演出・振付】篠原聖一
【指揮】磯部省吾
【管弦楽】帯広交響楽団
【出演】オーディション選出による帯広・十勝のバレエダンサー89名/ゲスト：荒井英之、加藤蒼朗、木村仁秀、飛永嘉尉、有澤健吾

12月15日、帯広市民文化ホールで第4回帯広市民バレエ公演『コッペリア』が始まった。翌日の本番を控えたこの日、帯広聾学校・養護学校、中札内高等養護学校など約60人の生徒と教師、家族を招待。札幌出身の篠原聖一(2018年東京新聞舞踊芸術賞受賞)が演出・振付、プロのバレエ団公演の指揮を数多く務める磯部省吾が帯広交響楽団(以下、帯響)を指揮する本物志向の舞台に、みんな興奮した表情だった。

『コッペリア』はスワニルダの恋人フランツが、コッペリウス博士のつくった機械人形コッペリアに恋する古典バレエの名作。篠原演じる個性豊かな博士が見守る中、オーディションでキャストイングされた地元バレエ団の井川こころ(スワニルダ)と堀杏里(コッペリア)が見事な踊りを見せる。祭りのシーンでは本物の帯広市長が市長役で登場し、小学2年生をはじめとした総勢95人が楽しい群舞を披露した。ボランティア約100人を含め、多くの市民関わったバレエ愛が結晶した祭典だった。

帯広市では1997年からほぼ4年に1回市民オペラを続けているが、それに続いて2004年に立ち上がったのがこの市民バレエだ。主催は、地元バレエ教室の指導者による「ティアラの会」、帯響、帯広市民オペラの会、帯広市民劇場運営委員会、帯広市教育委員会、一般財団法人帯広市文化スポーツ振興財団(ホール指定管理者)から成る実行委員会である。

ティアラの会会長で実行委員長を務める前塚典子は、「市民オペラに参加する中で、バレエを学ぶ子どもたちにもっと大きな舞台を経験させてやりたい、オーケストラの生演奏で踊らせてやりたいという思いが募ってきた。その一心で当時12あったバレエ教室の指導者が団結して発案した」と振り返る。そして、約1年にわたる合同稽古を経て、篠原振付・演出による第1回市民バレエ『くるみ割り人形』(オーディションによる213人が出演)を実現した。

財団で市民文化ホールを長く担当してきた木下富雄は、こうした活動の背景には帯広独自の文化基盤があるという。「1963年に旧帯広市民

会館をオープンするにあたって発足した帯広市民劇場運営委員会が50年以上活動してきた。この組織は会館を活性化するために音楽・舞台芸術・美術などの文化団体、鑑賞者等が集まったものだ。鑑賞者として地元企業の経営者も参加し、話し合いでさまざまな文化事業を企画。市民オペラも市民バレエもそこから生れてきた」。

運営委員で市民オペラの会会長でもある松崎千枝子は、「ここでジャンルを超えた文化団体の人や経営者などと意見交換できたことで皆さんの気づきがあった」と振り返る。経営者であり、1988年から2003年まで運営委員長、現在は帯響理事長を務める杉浦壽は、「外から呼ぶだけでなく、帯広ならではの文化を育てるべきだと思った。中学・高校の吹奏楽が盛んな土地柄だから、きちんとプロの指導を受ければオーケストラがつくれるのではないかと、怖いもの知らずの素人が87年に立ち上げたのが帯響(笑)。89年の市民文化ホールこけら落としにデビューして30年になる」と屈託ない。

ここから帯広発の文化のうねりが始まった。帯響10周年記念の市民オペラ『カルメン』は、オペラ経験者がいない中、「出演者とスタッフすべてを市民の手で」という無謀な企画だったが、市民オペラの会を立ち上げてプロの指導を仰ぎ、資金も集めて、約400人の市民演者と3年かけて実現した。その勢いに乗って市民バレエをやりたいと相談された杉浦は、「皆さんが団結しないと駄目だ」とアドバイスし、ティアラの会の立ち上げを後押しした。

新たなホールは直営から指定管理者になったが、場を提供し、実行委員会事務局を担うなど全面支援。運営委員経験者で財団理事長でもある金澤耿は、「市民文化の蓄積を他の指定管理施設でも生かしていけないか」展望している。それもこれも、市民・行政・経済界が連携してきた帯広方式の蓄積があつてこそだ。

「現市長は3期目の選挙公約で文化による振興を掲げてくれた。課題は多いが、半世紀続いてきた市民文化の火は絶やせない」と杉浦。北の大地の市民文化は、しぶとく熱く燃えている。(ノンフィクション作家・神山典士)